

特定非営利活動法人 Azuma-re

事業報告書

期間 2012' 4/1～2013' 3/31

NPO・コミュニティのサポート／中間支援

特定非営利活動法人 Azuma-re

年間事業のまとめ

法人設立から3度目の決算が終わりました。

設立初年度、「中間支援って何の役にたつの？」実感が少ないまま、手弁当でのセミナー「市民参加交流型セミナーCafé Azuma-re」、市民活動支援センターの受付管理・グリーンツーリズムの中間支援の受託事業をおこなった。

2年目、東日本大震災という未曾有の震災に見舞われ、宮城県内のNPOとして、「国境なき医師団」「お茶わんプロジェクト」「みやぎ元気市～結いの力～」「amaproject」など、普段では関わりを持つ事は無いであろう世界的に活躍している様ざまな個人・団体と出逢い一緒に災害支援活動を行った。そこでは自分たちだけでは到底出来ないであろう様ざまな活動経験を積んだ1年であった。

3年目の今期、「新しい公共支援事業」という国の補助事業が大きな後押しとなり、当法人が主たる事業と掲げている「NPO、コミュニティの支援／サポート」中間支援事業を本格的に実施した1年だった。地域に入りこんでのコミュニティ再生プロジェクト、専門家による個別相談会、各テーマでのセミナー開催、常設の無料相談事業、市内の団体のデータ化事業などを実施した。今期は、諸団体・コミュニティから相談を受けた回数が多く「コミュニティ・NPOの支援」の必要性／ニーズを確信した1年であった。

事業に関する事項

1. コミュニティ・NPOの支援／サポート

1) コミュニティ再生プロジェクト

事業名	コミュニティスクール推進事業（宮城県新しい公共支援モデル事業）
主催	コミュニティスクール協議会（金成地区子ども会育成会、青少年の為の栗原市民会議 金成支部、金成地区老人クラブ、金成婦人会、NPO法人 Azuma-re、栗原市）
主管	NPO 法人 Azuma-re
目的	お店、学校が無くなり、人口も減りコミュニティの様ざまな“つながり”も希薄になってきている。地縁組織・行政・NPO等が協働し、新たなつながりを再構築し、コミュニティを活性化させる
実施概要	栗原市金成地区5つの小学校区から一小学校区をモデル地区とし、学校・行政・地域・NPO等の協働で「子ども・青少年の健全育成、社会教育・生涯学習の場づくり」を推進するネットワークづくりを行い、事業モデルとして確立した後、市内全域に活動を広げる。 ※協議会：組織運営 ※会議体：サポート ■開催日時：平成24年10月～平成25年3月（25年度も継続中） ■会場：金成小学校区 ■対象者：小学校区の住民

当初の事業計画書内容を進めるにあたって、協議会にて内容を改めて審議することから始めた。なぜなら、助成金の募集開始から締切までの短い期間に、今まで一度も連携のなかった各組織をまとめ協議会をつくり事業の企画をすることは現実的に不可能であったため、まず各団体に個々に事業説明と協議体参加の依頼をおこない、助成が決定してから初めて1回目の会議を開催した経緯のためである。

また、助成期間終了後の継続性に重点を置き、協議会と会議体のやってみたいこと＝自主性と、地域の現状＝ニーズを重要視したためでもある。

結果として、計画にある事業を全ては実施できなかったが、話し合いとワークショップ、ヒアリングを行った上で、具体的な事業を実施・計画できた。これは協議体と会議体での話し合いの中から生まれた企画であり、よくありがちな「事業ありきで始まりイベントを開催して終わり」といった単発的なものではない。皆で紆余曲折の話し合いを経て生まれたものは、同じ内容のイベントでも全く違ったものになる。

「新しい公共」を形成する事が最重要と考え、あくまで協議会・会議体の意向/自主性/継続性を重要視しプロジェクトを進めた結果である。



平成 24 10 月～

- ・ 協議会メンバー 4 名を個々に訪問しヒアリング・事業説明
- ・ 8 地区の自治会・幼稚園・小学校・中学校・商工会・社会福祉協議会・4 地区の老人クラブ・5 地区の子ども会育成会の代表者へのヒアリングと事業説明

平成 24 10/22 (月) 18:30-20:30

第 1 回協議会ミーティング開催：事業の説明と質疑応答

11/15 (木) 18:00-20:00

第 1 回会議体ミーティング開催：事業の説明とワークショップ

11/28 (水) 18:00-20:00

第 2 回協議会ミーティング開催：ネットワーク会議での情報を元に具体的な事業実施企画

12/20 (木) 18:00-19:30

第 2 回会議体ミーティング開催：協議会で企画したイベントについての協力とアドバイスについて

12/22 (土) 10:00-14:00

「子どものあそび場づくり」実施（子ども会育成会と共催）

平成 25 1/12. 15. 16 10:00～ 協議会メンバー（小野寺、佐藤、菅原）と個々に打合せ

1/17 (木) 13:30-15:00 第 3 回協議会ミーティング開催


1/23 (水) 15:00～ヒアリング（金成幼稚園）

1/25 (金) 13:30～ヒアリング（金成小学校）

1/29 (水) 13:00～ヒアリング（青少年のための栗原市民会議金成支部会長）

	<p>14:30～ヒアリング（金成中学校）</p> <p>2/6（水）18:00～ヒアリング（上町・小迫子ども会育成会会長）</p> <p>2/7（木） ヒアリング（畑1自治会会長）</p> <p>2/28（木）10:00-12:00 第4回協議会会議開催</p> <p>3/7（木）18:00-19:30 第1回ノルディックウォーキング企画会議</p> <p>3/11（月）18:00-19:30 第2回ノルディックウォーキング会議</p> <p>3/12（火）18:00-21:00 テスト歩行</p> <p>3/17（日）10:00-15:00 南1自治会主催イベントのボランティア</p> <p>3/19（火）12:30-13:30 第5回協議会会議開催</p> <p>3/23（土）26（日）10:00-14:00 子どものあそび場づくり開催</p>
<p>成果課題</p>	<p>今回の事業は、この地区では初めて自治会・婦人会・老人クラブ・子ども会・青少年育成会議・幼小中学校・幼小中PTA・社協・行政・NPO等マルチステークホルダーによるコミュニティ活性化の取組である。</p> <p>初の取組と短い期間、地縁組織や学校の保守性等の要因により一長一短には進まず、かなり困難を伴ったが、そのプロセスこそが「新しい公共」をつくるために一番重であり、期間内に計画のイベントを全て実施できなかったが、持続性を重要視し、ニーズと自主性を主体にヒアリングや話し合いに時間と労力をかけた事で、25年度の組織継続が合意され、自主運営による具体的なイベントも5月に実施することとなった。</p> <p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>

2) 助言・コンサルティング事業

事業名	助言・コンサルティング事業
主催	宮城県（宮城県新しい公共支援事業 NPO 等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目的	市民活動をおこなう個人・団体の事業、組織運営全般にかかわる課題を解決するため助言をおこない市民活動の活発化の一助とする。
実施概要	<p>NPO・市民活動の運営全般に関する課題への個別相談・助言。</p> <p>■開催日時：平成24年7月～平成25年3月期間中の常時</p> <p>■会場：栗原市市民活動支援センター</p> <p>■対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>■相談料：無料 相談者：20名</p> <p>■対応者：千葉 和義 (NPO 法人 Azuma-re 代表理事)</p>  <p>相談内容内訳：</p> <p>① 相談者：任意団体代表 対応時間：30分 来館 相談内容：組織の運営体制が整っていない。事務局を請け負ってほしい</p> <p>② 相談者：任意団体代長 対応時間：30分 来館 相談内容：花火大会に被災地沿岸部の人達を招待したいのだが、どうすればよいか？どこの人達を招待すればよいか？</p> <p>③ 相談者：NPO 法人代表 対応時間：40分 来館 相談内容：宮城県新しい公共支援事業の内容を教えてほしい</p> <p>④ 相談者：社会福祉法人職員 対応時間：30分 来館 相談内容：支援物資（手芸用毛糸）の申入れがあり、どこか被災地沿岸部で役立てもらいたい。どこかないか？</p> <p>⑤ 相談者：任意団体代表 対応時間：60分 来館 相談内容：今度主催するイベントに被災地沿岸部の人達を招待したい。メンバーが少なくてイベントの搬入搬出が困難にんっている。シルバー人材に依頼しようかと思うが費用がかかり検討中。</p> <p>⑥ 相談者：個人 対応時間：30分 電話 相談内容：NPO って何ですか？介護手前の支援が必要な人を支援したいコミュニティビジネス的な。</p> <p>⑦ 相談者：任意団体代表 対応時間：30分 来館 相談内容：来月開催するイベントの受付、集計のスタッフがいないのでボランティアを探している</p> <p>⑧ 相談者：NPO 法人職員 対応時間：60分 来館 相談内容：被災地支援のボランティアバスツアーを行っている、これから本数を増やす予定、ツアーの中で栗原市の食や文化を味わってもらいたい。大勢で宿泊できる施設を探している。</p> <p>⑨ 相談者：任意団体代表 対応時間：40分 来館 相談内容：助成金の企画書の内容をみて助言をもらいたい。</p> <p>⑩ 相談者：NPO 法人職員 対応時間：60分 来館</p>

	<p>相談内容：コンカツ事業をおこなっているが、女性の集客が難しい。 JA 栗っこ女性部、企業ヘアアプローチしたいがどうすれば？</p> <p>⑪ 相談者：任意団体代表 対応時間 60分 来館 相談内容：イベントの実施や事務局体制など組織全般にかかわる相談</p> <p>⑫ 相談者：個人 対応時間：50分 来館 相談内容：被災地沿岸部の仮設住宅にいる人たちを対象に織り紙教室を開催したいがどうすればよいか？</p> <p>⑬ 相談者：任意団体代表 対応時間：60分 来館 相談内容：団体を NPO 法人化しようと思うが、法人化のメリット・デメリットとは？</p> <p>⑭ 相談者：NPO 法人理事 対応時間：50分 来館 相談内容：現在事業として文庫の貸出をおこなっているが、市より借用している施設が使用できなくなった。</p> <p>⑮ 相談者：任意団体代表 対応時間：40分 来館 相談内容：メンバーの高齢化にともなって事業や組織運営が難しくなってきた。新しいメンバーを入れたい。</p> <p>⑯ 相談者：個人 対応時間：30分 来館 相談内容：子どもたちに母国語（中国語）を教えるサークルを開きたい。</p> <p>⑰ 相談者：任意団体代表 対応時間：60分 来館 相談内容：新しく中間支援組織を立ち上げたい。参考に Azuma-re の事を教えてほしい</p> <p>⑱ 相談者：個人 対応時間：60分 来館 相談内容：栗原のもち米は日本一だ。「うどん県」みたいに栗原のもち米を全国にアピールするにはどうしたら良いか</p> <p>⑲ 相談者：個人 対応時間：60分 来館 相談内容：自主上映会を開催したいが、やり方がわからない。</p> <p>⑳ 相談者：任意団体事務局長 対応時間：60分 来館 相談内容：今年で2回目のイベントなのだが、事務局をしてくれた人がいなくなった。事務局をやってくれないか？</p>
<p>成果課題</p>	<p>【成果】大きく分けると「高齢化や人員不足で活動が出来なくなった」と「新しく活動をしたい」という2つに分かれた。これから何かを始めたい事はプラスの事象としてとらえられるが、今まで活動を続けてきた組織が運営できなくなるのは、様々な原因があり、かつマイナスな事象である。 しかし、今回相談業務を公に始めたことで、認知とともに相談者が増えてきている事は、今後の市民活動を活発化する一助となっている事だ。</p> <p>【課題】相談を受ける側のスキルがまだ乏しく、専門的な質問には回答が出来なかった。また、年配の男性が相談にくることが特に少なく、年配の男性が団体の代表をしているケースが多い事から、年配の男性が相談に来やすい環境をつくる事が必要だ。</p> <p>評価ランク <input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>

3) 専門家による個別相談事業

事業名	「NPO 会計基準セミナー」
主 催	宮城県（新しい公共支援事業NPO等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目 的	市民活動をおこなっている個人・団体を対象とし、NPO 法人のためにつくられた新しい会計基準を学び、NPO 活動を一層活発化させるため
実施概要	<p>●日 時：平成 25 年 2 月 23 日（土）14:00-16:00</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●参加費：無料</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>●参加者：6 団体</p> <p>●講 師：成田 由加里氏 （東北大学会計大学院教授、公認会計士）</p> <p>●内 容：「NPO 会計基準」について、なぜ会計基準をつくったのか？どういった点が今までと違うのか？具体的な作り方などを講義してもらい、その後質疑応答をおこなった。</p>
成果課題	<p>【成果】参加者が少数ということも手伝って、各団体からそれぞれの状況をふまえた細かな質問があり、個々に応答も出来、参加団体にとっては不安材料が軽減できたと感じた。</p> <p>また、NPO 会計基準にかかわらない会計・税務に関する質問もあり、会計全般に関する助言も出来、各団体にとってはプラスとなった。</p> <p>【課題】参加者の中は、既にNPO 会計基準を導入している法人、企業会計で行っている法人、任意団体だが勉強の為にきている法人など、様々な立場での参加であった。会計士を入れている法人も多かったが、会計士側も会計基準に戸惑いがあるような話もあった。</p> <p>2 時間という時間内では会計基準の基本的な部分の講義しかできなく、継続的なサポートが必要と感じた。</p> <p>☑S：特に優れた成果が得られた □A：優れた成果が得られた □B：一定の成果が得られた □C：限定的ではあるが成果が得られた □D：成果が得られなかった</p>



事業名	「NPO 労務相談」
主催	宮城県（新しい公共支援事業NPO等委託事業）
企画実施	NPO法人Azuma-re
目的	3. 11東日本大震災以降、人を雇用し事業をおこなうNPO法人が急増した。従来から雇用があったNPO法人も事業拡大にともない雇用がうまれた。きちんとした組織運営と基盤をつくるため社会保険や就業規則などの労務整備を整え、安定した活動を行える様サポートする。
実施概要	<p>●日 時：平成25年3月1日（金）13:00-16:00</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●講 師：長谷川 志津子氏（長谷川志津子社会保険労務士事務所長）栗原市</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北のNPO法人と市民活動団体</p> <p>●参加費：無 料</p> <p>●相談者：2団体</p> <p>●内 容：①NPO法人まきばフリースクール 相談者：法人職員 時 間：13:00～14:30 相談内容：「任意団体として介護事業、NPO法人としてフリースクール事業をおこなっていたが、今度2つの事業を合併することとなり、現在就業規則をつくっている。それをみて助言をもらいたい」</p> <p>②風の沢ギャラリー（任意団体） 相談者：団体代表 時 間：14:30～16:00 内 容：現在、NPO法人化を進めている。人を雇用することになるので、労務全般に関する事を教えてほしい。</p>
成果課題	<p>【成果】就業規則の作成、労務全般に関する質問を、無料で相談できたことは、財源に限りがある各NPO法人にとって有益な相談会であった。NPO・市民活動団体対象の専門家による無料相談会自体初めての実施だったこともあり、今後も開催してほしいとの要望が多かった。</p> <p>【課題】NPOにかかわらず労務規定に関しては認識の浅い団体もあり、法人である無しにかかわらず、従業員を雇用するという重大さを認知してもらうことが必要であると感じた。 また、一度だけの相談会では、ほんの一部しか相談できなく、継続性のあるサポートが必要と感じた。</p> <p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>



事業名	「NPOマネジメント相談会」
主 催	宮城県（新しい公共支援事業NPO等委託事業）
企画実施	NPO法人Azuma-re
目 的	NPOが抱える様々な課題を解決するためのサポートを行い、NPO活動をより活発に継続できる体制づくりの一助とすべく相談会を開催する。
実施概要	<p>●日 時：平成 25 年 3 月 8 日（金）13:30-16:30</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●講 師：大久保 朝江氏（NPO 法人杜の伝言板ゆるる代表理事） 仙台市</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>●参加費：無 料</p> <p>●相談者：3 団体（当日キャンセル 1 団体）</p> <p>●内 容：</p> <p>①NPO法人フォレストサイクル元気 相談者：代表理事 時 間：13:30～14:15 内 容：組織運営全般について（組織を継続していくため、人件費や事務所借賃、光熱費などの固定費を支払いたため自主財源の確保の仕方を助言頂きたい）</p> <p>②風の沢ギャラリー（任意組織） 相談者：団体代表 時 間：14：30～15:15 内 容：現在任意団体だが、法人化を進めている。法人化にするのあたっての助言を頂きたい。また、NPO会計基準とはどういったものか？</p> <p>③NPO法人クリーンせみね 相談者：理事長 時 間：15:15～16:00 内 容：現在、駅文庫活動をおこなっているが、栗原市より借用していた施設が震災で使用できなくなり、何万冊とある書籍の行き場所がなくなった。また、メンバーが高齢化し活動がままならなくなっている。新しいメンバーをいれるにはどうしたらよいか。</p>
成果課題	<p>【成果】各団体それぞれにそれぞれの課題があり、相談も時間内に収まらなかったが、一つひとつの課題の一つひとつの助言が、課題解決のヒントとなった。各団体のニーズも把握でき今後のサポート事業の礎ができた。</p> <p>【課題】今回参加した団体は、全体のNPOのほんの一部である。課題があっても相談会に出向かない団体が多数ある。その団体へのアプローチと継続的・常設での相談が必要である。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>



4) 「市民活動・コミュニティ」セミナー

事業名	「協働のまちづくりの先端と栗原の未来」
主 催	宮城県（新しい公共支援事業NPO等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目 的	様々なコミュニティの課題を解決するための一手法として、市民・行政・NPO 等が協力して自主的にコミュニティの課題を解決する「コミュニティ自治」活動を学ぶ場を設け、より豊かなコミュニティづくりの一助とする
実施概要	<p>●日 時：平成 24 年 12 月 7 日（金）18:00-20:00</p> <p>●場 所：栗原市ふるさとセンター</p> <p>●講 師：前山 総一郎氏（東北大学社会学 文学博士） 広島県</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>●参加費：無 料 ●参加者：20 名</p> <p>●内 容：「コミュニティ自治」をテーマとしたまちづくりの先進事例と研究成果の発表。質疑応答。交流タイム</p>
成果課題	<p>【成果】セミナー開催の30分前、震度5の地震が発生し、中止も考慮したが、講師も既に到着しており、予定どおり実施した。参加者は0ではないかと心配したが、20名の参加者があり、テーマへの関心が高いことを実感した。質疑応答の時間では活発な質問や答弁が発せられコミュニティの課題＝ニーズを把握することができた。</p> <p>【課題】コミュニティの課題解決には、NPO だけではなく、行政やその他様々な個人・団体の関わりが必要である。今回、栗原市の全職員へチラシを配布したが、地震により全職員待機となり一人の参加もなく残念。</p> <p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>

事業名	「子どもが主役のあそび場づくり」
主 催	宮城県（新しい公共支援事業NPO等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目 的	コミュニティの未来である「子ども」をとりまく環境を、より良いものとするために、行政・NPO 等の子育て支援活動を活性化するための一助とする
実施概要	<p>●日 時：平成 25 年 2 月 17 日（日）14:00-16:00</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●講 師：中川 ひろみ氏（NPO 法人子どものまなざし代表理事） 神奈川県</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>●参加費：無 料</p> <p>●参加者：20 名</p> <p>●内 容：「子どもを主役としたあそび場づくり」をテーマとした法人の活動と事例の発表。質疑応答。交流タイム</p>




成果課題

【成果】学校や保育所など子育ての仕事に関係している参加者が多かった。子どもを取り巻く環境の変化に敏感な人が集まった。交流タイムでは、参加者・講師が気さくにお茶を飲みながら交流が出来、次につながる「場」を持てた。

【課題】子育て支援の団体が少ないということもあり、参加者が子育て関係従事者がほとんどで、母親や父親といった親がいなかった。そういった意味では、子育てを支援する団体の啓蒙にはつながらなかった。

S：特に優れた成果が得られた A：優れた成果が得られた B：一定の成果が得られた C：限定的ではあるが成果が得られた D：成果が得られなかった


事業名	「自治会・コミュニティの活性化セミナー」
主 催	宮城県（新しい公共支援事業NPO等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目 的	コミュニティを担う「自治会」をより活発化する事を目的に先進的な取り組みをおこなっている他自治会活動を学ぶ場をつくり、よりよいコミュニティづくりの一助とする
実施概要	<p>●日 時：平成 25 年 3 月 16 日（土）13:00-15:00</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●講 師：井上 晴彦氏（ふれあいの丘連自治会長、高山自治会長）神奈川県</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>●参加費：無 料 ●参加者：40名</p> <p>●内 容：「自治会」をテーマとしたコミュニティづくりの先進事例と研究成果の発表。質疑応答。交流タイム</p>
成果課題	<p>【成果】参加者の大半が自治会の代表者だった。「自治会」をテーマとしたセミナーは栗原市では初めてであり関心の高さと同時にニーズがあることがわかった。質疑応答では各自治会の切実な課題が浮き彫りになった。</p>

	<p>【課題】地域や自治会により課題も多種多様であるため、一回のみの研修では、当てはまらないところがあった。また開催会場のロケーションにより、参加地区に片寄りがあった。テーマを数種類用意し、開催場所も変えながら実施することが今後必要である。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>
事業名	広報セミナー「一流のプロが教える人をひきつけるチラシ」
主 催	宮城県（新しい公共支援事業NPO等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目 的	市民活動、NPO 等の活動や組織の情報発信において、より有効な広報のノウハウを学ぶ場をつくり、コミュニティを支える担い手：市民活動・NPO 等のさらなる活発化を促す。
実施概要	<p>●日 時：平成 25 年 3 月 22 日（金）18:30-20:30</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●講 師：岡本 有弘氏（東北博報堂MD局局長） 仙台市</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>●参加費：無 料</p> <p>●参加者：30名</p> <p>●内 容：「広告」をテーマとしたマーケティング、先進事例、チラシのデザインの研修と、ワークショップでは、実際に自分達が考えたテーマを使い広報のキーワードづくりをおこなった。最後に交流タイムを設けて参加者同士のネットワークづくりをおこなった。</p> 
成果課題	<p>【成果】広告の第一線で活躍しているプロの講座ということで、県北だけでなく遠方からの参加者も少なくなかった。ワークショップでは参加者が考えた見出しを使い実践的な講座がおこなわれすぐに使えるノウハウを得た。</p> <p>【課題】アンケートでも「一回で終わりではなく今後も企画してほしい」との声を多く頂いた。少なくとも年に1回毎年開催してこそ、ノウハウが貯蓄され成果となってくるのではないかと感じた。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>

5) 市民参加交流型セミナーCafé Azuma-re

事業名	市民活動交流事業
主 催	宮城県（新しい公共支援事業 NPO 等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目 的	市民活動・NPO 団体等のネットワークづくりの場を設け、様々な組織・個人が協力し合い、よりよいコミュニティづくりをおこなう一助とする
実施概要	<p>●日 時：平成 24 8/22, 9/12, 10/10, 11/14, 12/12, 平成 25 1/9, 2/13, 3/13</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター</p> <p>●講 師：NPO ステップアップ、ビジネスマーケティング塾、みやぎ観光コンシェルジュ、NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク、映画「うまれる」自主上映チーム、寺子屋北翔舎、河北新報社、栗駒鶯沢商工会青年部</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO 法人と市民活動団体</p> <p>●参加費：無 料</p> <p>●参加者：180名</p> <p>●内 容：毎月1回、近隣の市民活動団体からゲストスピーカーを招き、活動や団体の紹介と団体同士の交流時間を設けてネットワークづくりをおこなった。</p>
	
成果課題	<p>【成果】8つの団体による発表があり、それぞれの団体メンバーの参加があり、団体同士や個人などさまざまなネットワークづくりができた。年齢層も20代から60代と幅広く、またある程度定期的におこなった結果、参加者も毎回さまざまだった事は、より幅広いネットワークの構築となった。</p> <p>【課題】継続的な開催にあたって、マンネリ化しがちな事業内容を、如何に新鮮なものに保つのが課題。</p> <p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的ではあるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった</p>

6) 情報集積・発信事業




事業名	市民活動の情報集積・発信事業
主催	宮城県（新しい公共支援事業 NPO 等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目的	市民活動に関する有益な情報の集積と発信をおこなう場をつくり、市民活動、NPO 等の活動をより一層活発化させるための一助とする
実施概要	<p>●開催日時：平成24年7月～平成25年3月</p> <p>●場 所：栗原市市民活動支援センター、インターネット上</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO と市民活動団体</p> <p>●内 容：</p> <p>① NPO・市民活動を行うにあたって有益な情報を、紙媒体（新聞記事のスクラップや、チラシ・冊子など）にて作成し、市民活動支援センター内へ展示・設置する。</p> <p>組織運営に関する基本的な有益情報は、定番として固定し、その他タイムリーな情報についてはテーマをしぼって掲示する。</p> <p>② 栗原市内の NPO・市民活動団体をデータベース化し市民活動支援センター内展示にて紹介する。トータル100団体を目標とし、市内の団体・活動をファイリング。</p>
	
事業名	市民活動 WEB データベース事業
主催	宮城県（新しい公共支援事業 NPO 等委託事業）
企画実施	NPO 法人 Azuma-re
目的	市民活動、NPO 等の情報を、インターネット上にて開示し、どこからも、どんな団体や活動があるのか見ることができる環境をつくる。
実施概要	<p>●開催日時：平成24年7月～平成25年3月</p> <p>●場 所：等法人ホームページ内</p> <p>●対象者：栗原市を含む宮城県北の NPO と市民活動団体</p> <p>●内 容：</p> <p>市民活動団体、NPO 団体等の団体情報を、ファイリングしインターネット上にて開示する。</p>
成果課題	<p>【成果】インターネットという現代では必要不可欠なツールによって沢山の市民に市内の NPO 活動・団体をひろく周知できた。</p> <p>※登録団体数90団体</p>

	<p>【課題】 自分達の活動や団体を広く知ってもらうための情報発信が、まだまだ根付いておらず、情報提供の協力を何度も依頼しても、答えが無い団体が多かった。また、協力してもらった団体の情報を毎年更新する作業量が大きく、更新方法を考える必要がある。</p>
--	---

2. 東日本大震災支援事業

事業名	ama project (アマプロジェクト)								
主 催	ama project								
事務局	NPO 法人 A z u m a -re								
目 的	<p>東日本大震災の被災者特に女性の方々へ、集まる機会と活動や作業を提供することにより、1) 生活支援-仮設住宅環境での孤立化を防ぎ、参加者同士のコミュニケーションを促進し、自らの手で創作する喜び、働く喜び、達成感を得る機会を提供する。2) 精神的支援-震災による精神的に受けたダメージへの回復のプロセスを促す状況を提供する。2) 経済的支援-手芸作品の販売収益を地域へ還元する。これら3点の実行により復興への一助となることを目的とする。</p>								
実施概要	<p>南三陸町の仮設住宅2ヶ所「平磯仮設」「横山仮設」にて毎週2回手芸活動を実施し、完成品を関東を中心としたショップで販売し販売利益を作り手さんへ還元した。</p> <p>■日時：平成24年4月～平成25年3月／週1～2回実施 ■場所：南三陸町平磯仮設住宅、登米市横山仮設住宅 2ヶ所 ■製品販売実績：およそ1,300本／392万円 ■作り手さん還元金：およそ215万円</p> <p>■販売協力店 [CIBONE オンラインストア] http://www.cibone.com/products/c1004 [BUYMA] http://www.buyma.com/item/7019849/ [MERCi PARIS] 111, boulevard Beaumarchais 75003 Paris [sacai] 東京都港区南青山5-4-44 南青山シティハウス A-1F, 2F [CIBONE Aoyama] 107-0061 東京都港区北青山2-14-6 青山ベルコモンズ B1 [TODAY'S SPECIAL] 152-0035 東京都目黒区自由が丘2-17-8 [国立新美術館 ミュージアムショップ] 106-8558 東京都港区六本木7-22-2 [idea by SOSU] 150-0001 東京都渋谷区神宮前3-30-12 神宮前ビル 4F,G [NADiFF] 東京都写真美術館ミュージアム内 [arrondissement] 宮城県仙台市青葉区木町通り2-6-15 1F</p> <p>【収入】(2012'4/1～2013'3/31)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">製品売上</td> <td style="text-align: right;">3,928,742</td> </tr> <tr> <td>銀行利息</td> <td style="text-align: right;">118</td> </tr> <tr> <td>-----</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">3,928,860</td> </tr> </table>	製品売上	3,928,742	銀行利息	118	-----			3,928,860
製品売上	3,928,742								
銀行利息	118								

	3,928,860								


	<p>H23 繰越金 120,926 (事業費) 307,500 (寄付金)</p> <p>-----</p> <p>4,357,286</p> <p>【支出】</p> <p>作り手さん支払い 2,148,500 材料費 666,892 事務局委託費 800,000 (事務局人件費) 旅費交通費 190,111 H23 法人税 54,700 通信運搬費 53,970 会場 45,400 研修費 21,800 印刷製本費 10,267 消耗品費 7,734 雑費 7,695 支払手数料 420 広告費 320</p> <p>-----</p> <p>4,008,079</p> <p>収入 4,357,286－支出 4,008,079＝349,207</p> <p style="text-align: right;">72,000 (H24 法人税)</p> <p style="text-align: right;">-----</p> <p style="text-align: right;">繰越金 277,207</p>	  
<p>成果課題</p>	<p>【成果】横山仮設住宅においては、震災前の居住地がそれぞれバラバラであった為、この活動を通して友人になった参加者がほとんどであった。活動開始から数カ月後には製品も売れ出し始め、参加者への還元も毎月平均的に支払う事ができ参加者にとって「お小遣い稼ぎもできる楽しい集まり」となり、この活動の目的を達成できたと思う。</p> <p>また、南三陸町社会福祉協議会の協力を得ながら、手芸・金銭だけでなく参加者の心身の状態にも気を配り、気づいた事があればその日に生活支援員への報告等をおこなった。</p> <p>【課題】15カ月間活動をおこなった。次年度も活動を継続させるための資金と、活動をいつ頃まで続けるのが良いかの判断が難しかった。震災前は仕事をしている参加者が多かった為、この活動の収入が仕事復帰の妨げになるおではないかと考えながら活動をおこなった。</p>	

事業名	みやぎ元気市～結いの力～
主 催	元気復興ネットみやぎ
事務局	NPO法人Azuma-are
目 的	<p>1.仙台市青葉区の勾当台公園市民広場において、沿岸部の被災者と連携し物産販売店を開催する</p> <p>2.再生産するための資金や生活資金を、自力で確保してゆく第一歩としての</p>

	<p>経済活動の再開の一助とする</p> <p>3.南三陸町を主とし県内の被災地沿岸部と栗原市や登米市近隣の生産者が連携して「元気な地域」「がんばる地域」を消費者の皆さまに伝える。</p>
実施概要	<p>仙台市勾当台公園市民広場にて復興市「みやぎ元気市～結いの力～」の開催 4/24-25, 5/19-20(青葉祭り), 6/26-27, 11/8-9, 3/27-28</p> 
成果課題	<p>【課題】勾当台公園市民広場で常に色々な復興イベントが開催されており、お客様がイベントに飽きてしまった様子うかがわれた。</p> <p>そのために、ライブ音楽やチンドン屋など集客の企画を実施した。</p> <p>また、沿岸部の復興とともに、仙台での出店者も減ってきたが、これは課題というよりは成果と呼ぶべきかもしれない。</p>

3. 受託事業

事業名	栗原市市民活動支援センター施設管理業務
委託者	栗原市
受託者	NPO法人Azuma-re
実施概要	栗原市市民活動支援センター窓口業務
期 間	平成23年4月1日～平成24年3月31日

事業名	栗原市市民活動団体交流事業
委託者	栗原市
受託者	NPO法人Azuma-re
実施概要	<p>市民活動団体同士の交流ネットワークづくりの場を、築館、花山で1回ずつ設けた。築館地区では市民活動団体数が多い事から今まで交流のまったくなかった団体での交流会を開催。</p> <p>花山地区では顔見しりの地縁組織を主体とし交流よりもう一步踏み込んだ具体的な集まりを開催した。</p> <p>■日時：平成24年10月26日</p> <p>■場所：築館「ゲストハウスまつや」</p> <p>■参加団体：くりはらチャレンジL、あかほっぺ、タラチネの会、栗原築館生活学校、117CONNECTION、公社)日</p> 

	<p>本オストミー協会宮城県支部、クリハイザープロジェクト、NPO 法人クリーンせみね、NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク、栗原市市民協働課</p> <p>■日時：平成 24 年 11 月 7 日 ■場所：花山もいずみストア</p> <p>■参加団体：花山村塾、 花山支援の会、一迫花山商工会、 花山観光物産協会、花山生活改善クラブ、 花山民生員児童協議会、花山食生活改善クラブ、栗原市社会福祉協議会花山支所、花山地域開発株式会社(自然薯の館)、花山漁業協同組合、花山畜産協会、花山協働教育推進協議会</p>
期 間	平成 24 年 10 月 26 日、11 月 7 日
成果課題	<p>【成果】築館地区の交流会では、知らない団体同士がほとんどであった為、参加団体からは「初めて知った活動／団体が多くてとても刺激になった。また開催してほしい」との意見をもらった。</p> <p>花山地区では「みな顔見知りで知っている団体だが、一つのテーマに一同が集まったのは初めてで、とても有意義な集まりだった」との意見をもらった</p> <p>【課題】継続的におこなうことで、協力しあえる関係が構築される。1 回だけの単発ではネットワークをつくる事は難しい。継続させる事が課題</p>

事業名	栗原市国際交流協会サポート業務
委託者	栗原市国際交流協会
受託者	NPO 法人 A z u m a - r e
期 間	平成 24 年 7 月～平成 25 年 3 月
実施概要	<p>市町村合併にともない、各町村にあった国際交流協会も「栗原市国際交流協会」として一本化となったが、地区も離れており、運営方法もそれぞれであり、組織としてまだ体をなしていない面が多々あった。事務局業務を請け負いながら組織基盤づくりのサポートを行った。1 年目は全ての業務を把握することに費やし 2 年目より組織づくりのサポートを行いたいと考えていたが、意見の相違があり単年度で終了となった</p>

事業名	築館朝市運営委員会サポート業務
委託者	築館朝市運営委員会
受託者	NPO 法人 A z u m a - r e
期 間	平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
実施概要	<p>事務局業務を維持することが困難になったため、事務局を請け負い自主運営できる組織基盤をつくるサポートをおこなった。</p> <p>当初の 1 年は全ての業務を把握する為の 1 年であり、平成 25 年度より本格的な組織づくりを始める予定。</p>



事業名	「栗原オータムライドサイクリング」サポート業務
委託者	くりはら秋夢まつり実行委員会
受託者	NPO法人Azuma-re
実施要項	<p>日時：平成24年10月14日</p> <p>ロードバイクで栗原市を一周するイベントの事務局を請け負った。</p>



事業名	映画「うまれる」サポート業務
委託者	映画「うまれる」栗原自主上映チーム
受託者	NPO法人Azuma-re
実施概要	<p>日時：平成24年12月15日</p> <p>一人の母親から「栗原でも上映してほしい」その声を実現するため実行員会の立ち上げに加わり上映までのサポートをおこなった。</p>



4. NPO 支援センターの利活用に関するレポート

●市民活動・NPO の認知・普及度

栗原市では「市民活動・NPO」の認知度、普及度合いは極めて低かった。

2009年1月、市民活動支援センターのオープンがきっかけとなり「市民活動」「NPO」というキーワードが出現した。

●市民活動支援センターと当法人の関係

当法人は市民活動支援センター完成と同年に法人設立のため、センターの為に作られた法人だと誤解されることが多いがそうではない。センター設立の1年前より数名があつまり栗原を活性化するために何をすれば良いかを話し合っていたところ、市民活動支援センターの建設を知り、同時に中間支援という活動を知り、「中間支援ならば、地域やテーマが違って幅広く全体を活性化できるのではないかと考え中間支援組織 NPO 法人 Azuma-re を設立した。そして、ソフト的事業が無い「貸館」である市民活動支援センターを会場としソフト／中間支援事業を展開することとなった。

設立当初、等法人には予算は無く、ボランティアによる“手弁当”でのセミナーを毎月1度市民活動支援センターを会場とし1年間開催した。

2年目（2010年度）、栗原市より市民活動支援センターの受付業務を受託。

これは指定管理ではなく受付業務の委託であり、中間支援的なソフト事業費は無い。

●センターの認知度・利用率

平成 21 年度期	総利用者数	31,894 人	／	1 日平均	105 人
平成 22 年度期	〃	33,915 人	／	1 日平均	112 人
平成 23 年度期	〃	43,706 人	／	1 日平均	145 人
平成 24 年度期	〃	45,679 人	／	1 日平均	148 人

ロケーション、広い駐車場、1階が総合支所など、利便性が伴い来場者数は毎年増加している。しかし利便性だけではない。

施設は利用しているが、今まで NPO・市民活動を知らなかった・興味がなかった市民・地縁組織・趣味のサークル・生涯学習団体等が施設内でさまざまな情報に触れることによって市民活動・NPOを知り、その後の活動・団体の設立・啓蒙につながっている。

“情報”はただ待っていても集まらない。定期的に情報を集める・作る・目に留まる様に工夫し発信する事で初めて利用者に届く。「センターに行けば情報がある」という認識をもってもらう事が重要である。

●NPO センターの運営促進

現在、全国各地に NPO・市民活動を支援するセンター（※NPO センターと総称）が存在するが、人口・商圈・地域性、運営団体のカラーによって事業内容は一概ではない。栗原市市民活動支援センターも、栗原市という地域性をふまえた運営をおこなっている。NPO センターの目的は「コミュニティ・地域社会の課題解決や担い手となる NPO・市民活動等を支援し、豊かなコミュニティ・社会をつくる」ことである。

『NPO 法人は 21 団体。地縁組織その他組織は、NPO 法人の 10 倍以上』

栗原市においての中間支援は、NPO 法人のみに比重を置いた活動ではなく、自治会や婦人会等の地縁組織、趣味のサークル、生涯学習団体等も対象とした NPO・市民活動の啓蒙と、学び／セミナー、交流／ネットワーク、情報発信等の支援事業を実施することが必要不可欠である。

ただし。地縁組織その他現存の団体を支援育成することは時間と労力が必要である。長年同じ組織運営をおこなっている団体が多く、変化を好まないところがあり新しいことを取り入れるまでに時間がかかる。

また高齢化や人口減少により、組織運営がままならない団体がどんどん増えている。

少なくとも組織解散になってしまう 1 年前には、新しい取組を取り入れないと再生は難しい。しかし、危機感がなかったり変化を好まない団体が多いことから、解決策として行政との共同事業にて支援活動を実施するとスムーズに受け入れられるであろう。

NPO 法人でも、団体設立の経緯が大きく分けて 2 つある。ひとつは指定管理を受けるために設立された法人である。これは目的が指定管理の受け皿であるため、組織内の意志統一や会計・庶務といった基盤が出来ていない事が多く課題が山積しており支援サポートが必要だが、組織の意思統一がなされていないため非常に難しい部分がある。

設立目的がはっきりとしており、その目的のための設立された NPO 法人に関しては、組織内の意思統一が出来ており組織基盤が整っている場合が多く、支援としてはより専門的・高度な支援が必要である。

今回、従来情報提供してきた以外の団体に情報を提供した結果、NPO 法人以外でも、情報に敏感な組織も多数あることがわかった。

しかし、FAX、E メールでの連絡が出来ないケースが多く、郵送費が必要であるため、継続的に情報提供するには費用の問題はあるが、NPO 法人に重点をおきすぎず、広く情報を発信する事が重要だとわかった。

5. 組織運営に関する事項

1) 総会の開催

平成24年度総会を開催

開催日時：平成24年6月18日 午後7時00分から午後8時30分

場 所：ビジネスホテル「志ばたや」

審議事項：平成23年度事業報告及び決算
平成24年度事業計画及び予算
役員の変更

2) 理事会の開催

平成24年7月27日、平成25年2月26日

2) 会議

スタッフミーティング（有給スタッフ）

平成24年8/23、9/27、10/24、11/29

平成25年1/24、2/28、3/29

6. 委員会等の委員

行政等の審議会や委員会、評議会などの委員として、市民活動・NPOの立場から提言を行っている。

■宮城県新しい公共支援事業運営委員

■宮城県地域づくり団体協議会栗原支部副支部長

■栗原市社会福祉協議会ボランティア運営委員

■栗原市南部商工会「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」ワーキング委員

■日本NPOセンター「市民活動団体(NPO)育成・強化プロジェクト」宮城メンバー